

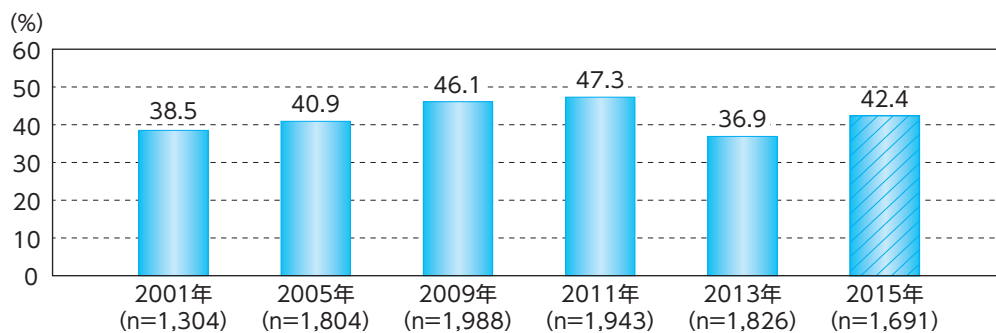
# 4 スポーツ観戦

## 4-1 直接スポーツ観戦状況

過去1年間に体育館・スタジアム等へ足を運んで直接スポーツの試合を観戦した者は、全体の42.4%であり、わが国10代の直接スポーツ観戦人口は502万人と推計された(図4-1)。2013年調査では36.9%と過去最も低

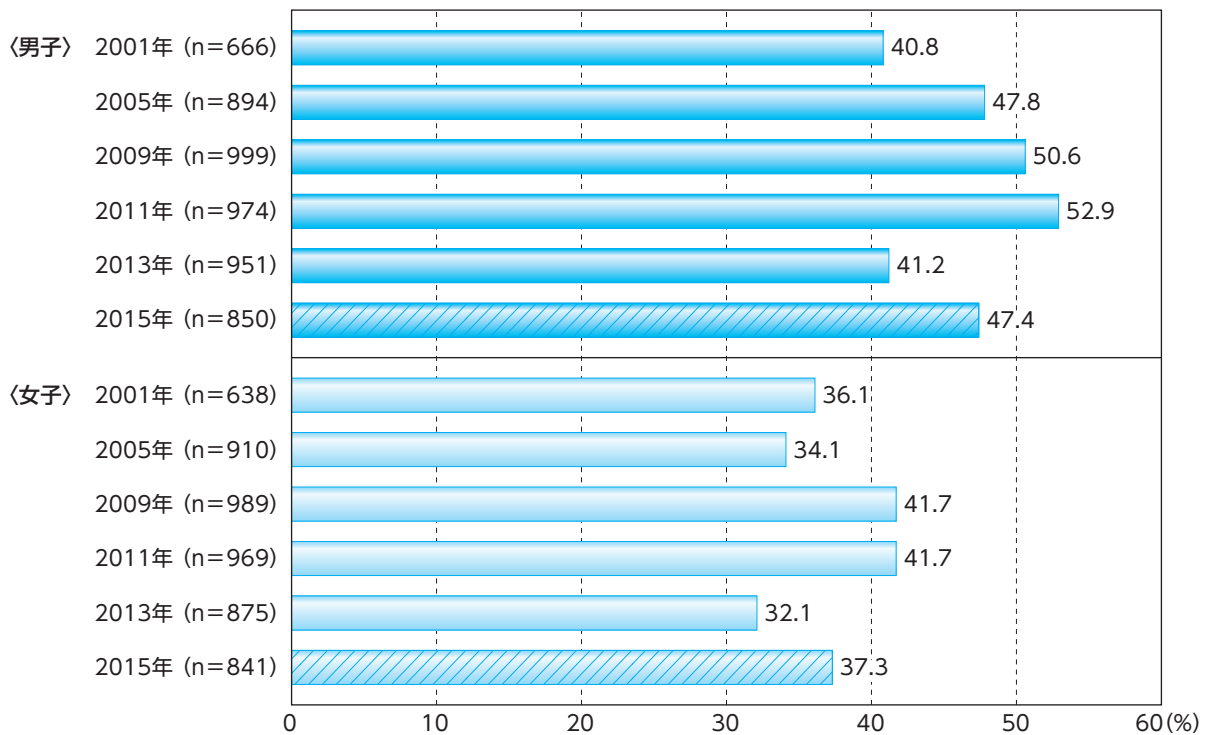
い観戦率を記録したが、今回調査では5.5ポイントの増加となった。

性別にみると、男子の観戦率は47.4%、女子は37.3%であり、男子が女子を10.1ポイント上回った(図4-2)。



【図4-1】直接スポーツ観戦率の年次推移

資料：笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2015



【図4-2】直接スポーツ観戦率の年次推移(性別)

資料：笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2015

男子が女子を上回る傾向は調査を開始した2001年から変わっていない。

学校期別にみると、高校期が48.5%で最も高く、次いで大学期43.1%、中学校期41.9%であった(表4-1)。2013年調査と比較すると、いずれの学校期においても観戦率の増加がみられた。

性別・学校期別にみると、男子は小学校期50.0%、中学校期48.9%、高校期52.6%と小学校期から高校期に

かけての観戦率はおよそ5割であるが、大学期では39.1%と減少する(表4-2)。一方、女子では小学校期27.3%、中学校期33.5%、高校期44.2%、大学期45.9%と学校期が進むにつれて観戦率の増加がみられる。

運動・スポーツ実施レベル別にみると「レベル0」19.6%、「レベル1」31.3%、「レベル2」42.3%、「レベル3」43.7%、「レベル4」57.0%とレベルが高くなるにつれて観戦率も増加する(図4-3)。

【表4-1】直接スポーツ観戦率の年次推移(学校期別)

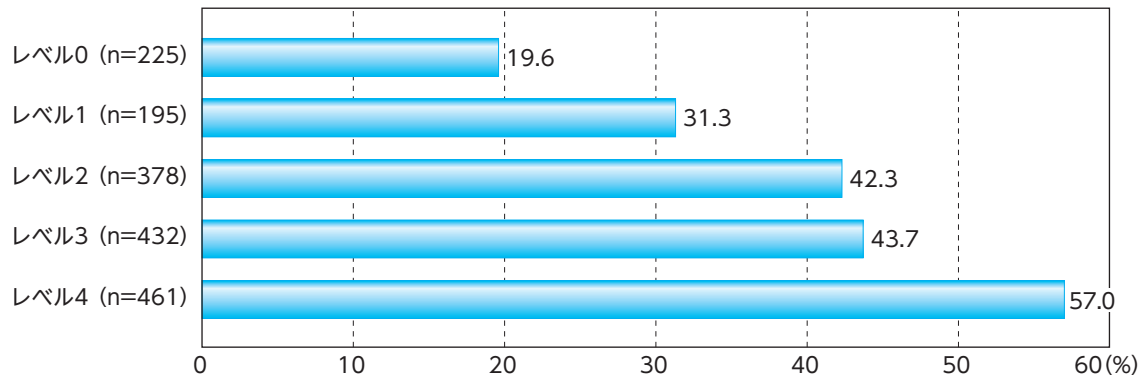
2011年		2013年		2015年	
学校期	%	学校期	%	学校期	%
小学校期 (n=371)	49.9	小学校期 (n=385)	38.4	小学校期 (n=306)	38.6
中学校期 (n=590)	50.8	中学校期 (n=580)	36.7	中学校期 (n=506)	41.9
高校期 (n=635)	46.9	高校期 (n=552)	40.8	高校期 (n=530)	48.5
大学期 (n=236)	44.1	大学期 (n=196)	33.7	大学期 (n=225)	43.1
勤労者 (n=83)	32.5	勤労者 (n=85)	18.8	勤労者 (n=89)	29.2

資料：笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2015

【表4-2】直接スポーツ観戦率の年次推移(性別×学校期別)

男 子					
2011年		2013年		2015年	
学校期	%	学校期	%	学校期	%
小学校期 (n=191)	56.5	小学校期 (n=213)	46.5	小学校期 (n=152)	50.0
中学校期 (n=291)	58.1	中学校期 (n=305)	45.9	中学校期 (n=276)	48.9
高校期 (n=314)	50.0	高校期 (n=278)	42.4	高校期 (n=272)	52.6
大学期 (n=118)	50.8	大学期 (n=86)	26.7	大学期 (n=92)	39.1
勤労者 (n=45)	37.8	勤労者 (n=50)	18.0	勤労者 (n=39)	25.6
女 子					
2011年		2013年		2015年	
学校期	%	学校期	%	学校期	%
小学校期 (n=180)	42.8	小学校期 (n=172)	28.5	小学校期 (n=154)	27.3
中学校期 (n=299)	43.8	中学校期 (n=275)	26.5	中学校期 (n=230)	33.5
高校期 (n=321)	43.9	高校期 (n=274)	39.1	高校期 (n=258)	44.2
大学期 (n=118)	37.3	大学期 (n=110)	39.1	大学期 (n=133)	45.9
勤労者 (n=38)	26.3	勤労者 (n=35)	20.0	勤労者 (n=50)	32.0

資料：笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2015



【図4-3】直接スポーツ観戦率(レベル別)

資料：笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2015

## 4-2 直接観戦したスポーツ

直接観戦したスポーツは、全体では「プロ野球 (NPB)」の観戦率が15.6%と最も高く、次いで「高校野球」11.4%、「Jリーグ (J1、J2、J3)」7.1%、「サッカー (高校、大学、JFLなど)」5.1%、「バスケットボール (高校、大学、NBLなど)」5.0%であった (表4-3)。

性別にみると、男女ともに「プロ野球 (NPB)」(男子19.6%、女子11.4%)の観戦率が最も高く、次いで「高

校野球」(男子12.5%、女子10.2%)であった。以下、男子は「Jリーグ (J1、J2、J3)」10.8%、「サッカー (高校、大学、JFLなど)」6.6%が続き、女子は「バレーボール (高校、大学、Vリーグなど)」4.8%、「バスケットボール (高校、大学、NBLなど)」と「マラソン・駅伝」が同率で4.3%と続く。

【表4-3】直接観戦したスポーツの年次推移(全体・性別:複数回答)

(%)

順位	種目	全体			男子			女子		
		2011 (n=1,943)	2013 (n=1,826)	2015 (n=1,691)	2011 (n=974)	2013 (n=951)	2015 (n=850)	2011 (n=969)	2013 (n=875)	2015 (n=841)
1	プロ野球 (NPB)	15.3	13.7	15.6	19.6	17.7	19.6	10.9	9.5	11.4
2	高校野球	11.7	7.9	11.4	13.3	9.8	12.5	10.0	5.9	10.2
3	Jリーグ (J1、J2、J3)	7.3	6.5	7.1	11.4	9.3	10.8	3.1	3.4	3.3
4	サッカー (高校、大学、JFLなど)	4.1	3.5	5.1	5.9	4.5	6.6	2.4	2.4	3.7
5	バスケットボール (高校、大学、NBLなど)	8.5	3.8	5.0	8.2	2.6	5.6	8.8	5.1	4.3
6	マラソン・駅伝	3.0	3.3	4.7	3.5	3.5	5.2	2.5	3.2	4.3
7	バレーボール (高校、大学、Vリーグなど)	4.9	2.8	3.7	2.5	1.3	2.6	7.3	4.6	4.8
8	プロバスケットボール (bjリーグ)	-	2.0	2.1	-	2.2	2.9	-	1.8	1.2
9	サッカー日本代表試合 (五輪代表を含む)	1.6	0.8	2.0	2.5	1.2	2.9	0.8	0.3	1.1
10	アマチュア野球 (大学、社会人など)	-	1.5	1.7	-	1.9	2.5	-	1.0	1.0
	直接みたことはない	52.7	63.1	57.6	47.1	58.8	52.6	58.3	67.9	62.7

注)「-」は回答選択肢になかった種目

資料：笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2015

今回調査において全体の直接観戦率が高かった上位5種目に着目し、学校期別にみた観戦率の年次推移を表4-4に示した。高校期を除いて「プロ野球(NPB)」(小学校期17.3%、中学校期18.0%、大学期15.6%、勤労者11.2%)の観戦率が最も高い。高校期では「高校野球」が20.4%と最も高く、2位の「プロ野球(NPB)」13.4%に7ポイントの差をつけていた。

次に、今後直接観戦したいスポーツをたずねたところ、「プロ野球(NPB)」が21.3%と最も高く、次いで「サッカー日本代表試合(五輪代表を含む)」18.7%、「高校野球」15.6%、「フィギュアスケート」14.5%、「プロテニス」14.4%となった(表4-5)。一方、今後「直接みたいスポーツはない」と回答した者は38.2%であり、2013年調査か

ら2.5ポイント増加した。2011年、2013調査で1位であった「サッカー日本代表試合(五輪代表を含む)」の観戦希望率が減少した一方で、「プロテニス」は増加がみられている。

性別にみると、男子は「プロ野球(NPB)」が24.9%と最も高く、次いで「サッカー日本代表試合(五輪代表を含む)」23.3%、「高校野球」16.7%、「Jリーグ(J1、J2、J3)」16.3%であり、野球とサッカーの観戦希望率が高い。一方、女子は「フィギュアスケート」が24.9%と最も高い。次いで「プロ野球(NPB)」(17.6%)、「プロテニス」(16.0%)、「バレーボール(日本代表試合)」(15.6%)の観戦希望率が高く、観戦したい種目に多様性がみられる。

【表4-4】 直接観戦したスポーツの年次推移(学校期別:複数回答)

(%)

順位	種目	小学校期			中学校期			高校期			大学期			勤労者		
		2011 (n=371)	2013 (n=385)	2015 (n=306)	2011 (n=590)	2013 (n=580)	2015 (n=506)	2011 (n=635)	2013 (n=552)	2015 (n=530)	2011 (n=236)	2013 (n=196)	2015 (n=225)	2011 (n=83)	2013 (n=85)	2015 (n=89)
1	プロ野球(NPB)	22.4	19.0	17.3	16.8	15.9	18.0	11.0	11.1	13.4	14.4	9.7	15.6	10.8	5.9	11.2
2	高校野球	7.0	5.5	3.3	8.3	4.0	6.9	17.3	13.9	20.4	12.7	9.7	13.8	10.8	4.7	5.6
3	Jリーグ(J1、J2、J3)	10.5	10.4	9.5	8.0	5.5	7.1	5.5	6.0	7.2	6.8	5.1	6.7	3.6	2.4	2.2
4	サッカー(高校、大学、JFLなど)	2.4	1.6	2.6	4.1	3.1	3.8	5.4	5.6	8.3	3.8	3.6	5.3	3.6	1.2	3.4
5	バスケットボール(高校、大学、NBLなど)	6.7	2.1	2.0	10.3	2.4	3.2	9.1	6.2	9.1	5.9	6.6	5.8	7.2	1.2	1.1
	直接みたことはない	50.1	61.6	61.4	49.2	63.3	58.1	53.1	59.2	51.5	55.9	66.3	56.9	67.5	81.2	70.8

注) 順位は2015年調査における全体の観戦率が高かった上位5種目  
資料: 笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2015

【表4-5】 直接観戦したいスポーツの年次推移(全体・性別:複数回答)

(%)

順位	種目	全体			男子			女子		
		2011 (n=1,944)	2013 (n=1,782)	2015 (n=1,696)	2011 (n=976)	2013 (n=935)	2015 (n=854)	2011 (n=968)	2013 (n=847)	2015 (n=842)
1	プロ野球(NPB)	23.8	23.0	21.3	29.3	28.8	24.9	18.3	16.5	17.6
2	サッカー日本代表試合(五輪代表を含む)	26.7	25.8	18.7	32.5	29.4	23.3	21.0	21.8	14.0
3	高校野球	13.3	13.8	15.6	13.3	16.4	16.7	13.2	11.0	14.4
4	フィギュアスケート	14.8	13.4	14.5	4.4	3.7	4.2	25.2	24.1	24.9
5	プロテニス	9.1	9.5	14.4	9.1	9.8	12.9	9.1	9.2	16.0
6	サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	0.1	13.2	12.1	0.0	10.5	10.9	0.2	16.3	13.3
7	Jリーグ(J1、J2、J3)	14.3	12.8	11.6	20.1	18.0	16.3	8.5	7.1	6.9
8	海外のプロサッカー(ヨーロッパ、南米など)	14.2	14.0	11.1	22.4	19.9	15.7	5.9	7.6	6.4
9	バレーボール(日本代表試合)	12.3	11.2	11.1	5.6	6.3	6.7	19.0	16.5	15.6
10	海外のプロバスケットボール(NBAなど)	10.0	7.9	9.7	12.1	9.5	11.7	8.0	6.0	7.6
	直接みたいスポーツはない	27.4	35.7	38.2	25.1	33.7	36.5	29.8	38.0	39.9

資料: 笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2015

今回調査において全体の直接観戦希望率が高かった上位5種目を学校期別にみると、いずれの学校期においても「プロ野球 (NPB)」と「サッカー日本代表試合 (五

輪代表を含む)」の観戦希望率が高い (表4-6)。また、小学校期では「プロテニス」19.5%、高校期では「高校野球」21.6%の観戦希望率が高い特徴がみられた。

【表4-6】 直接観戦したいスポーツの年次推移 (学校期別:複数回答)

(%)

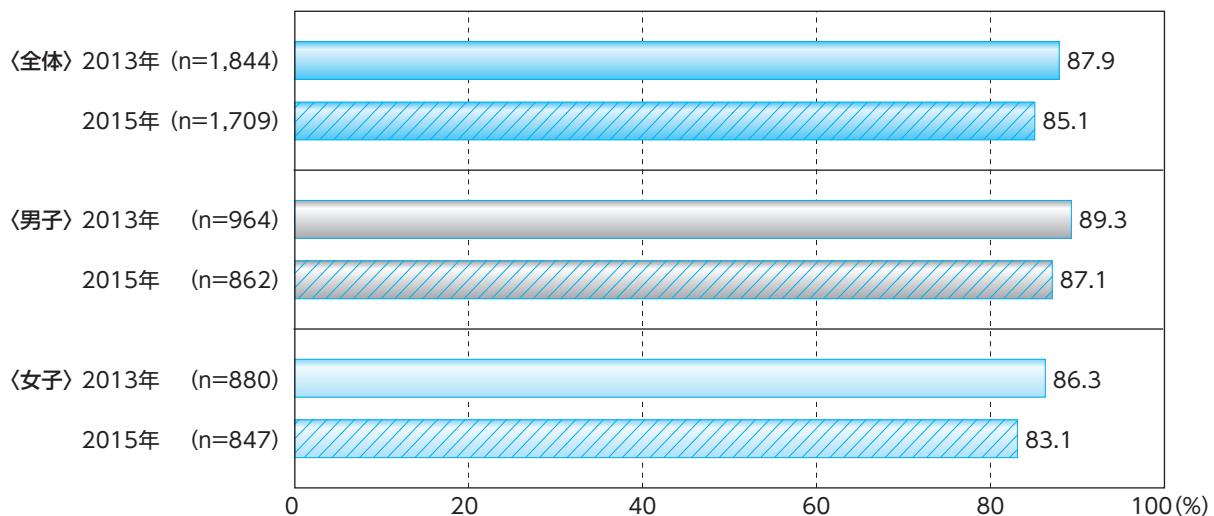
順位	種目	小学校期			中学校期			高校期			大学期			勤労者		
		2011 (n=372)	2013 (n=373)	2015 (n=308)	2011 (n=591)	2013 (n=568)	2015 (n=510)	2011 (n=634)	2013 (n=543)	2015 (n=527)	2011 (n=236)	2013 (n=193)	2015 (n=225)	2011 (n=83)	2013 (n=78)	2015 (n=90)
1	プロ野球 (NPB)	23.7	20.6	21.4	23.5	24.6	22.0	24.9	21.9	22.8	23.7	29.0	21.8	21.7	15.4	11.1
2	サッカー日本代表試合 (五輪代表を含む)	27.4	28.4	22.7	28.4	23.2	17.5	24.6	26.3	18.6	28.8	29.0	20.4	20.5	20.5	12.2
3	高校野球	8.6	9.1	8.8	14.2	13.2	15.1	15.3	18.0	21.6	14.0	16.6	14.7	10.8	6.4	10.0
4	フィギュアスケート	18.5	16.4	17.9	13.2	13.7	15.9	13.9	11.6	13.1	16.5	14.0	16.0	9.6	9.0	4.4
5	プロテニス	9.9	10.7	19.5	11.0	11.4	15.5	8.2	8.1	13.1	7.2	7.8	13.3	1.2	2.6	3.3
	直接みたいスポーツはない	25.8	34.6	34.4	26.2	34.9	35.5	29.5	34.4	36.1	24.2	36.3	43.1	32.5	52.6	57.8

注) 順位は2015年調査における全体の観戦希望率が高かった上位5種目  
資料: 笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2015

### 4-3 テレビによるスポーツ観戦状況

過去1年間にテレビでスポーツの試合を観戦した者は、全体の85.1%であり、わが国10代のテレビスポーツ観戦人口は1,007万人と推計された (図4-4)。2013年調査と比較すると、2.8ポイントの減少となった。

性別にみると、男子87.1%、女子83.1%であり、男子が女子を4ポイント上回る。2013年調査と比較すると、男女ともに観戦率は減少の傾向がみられた。

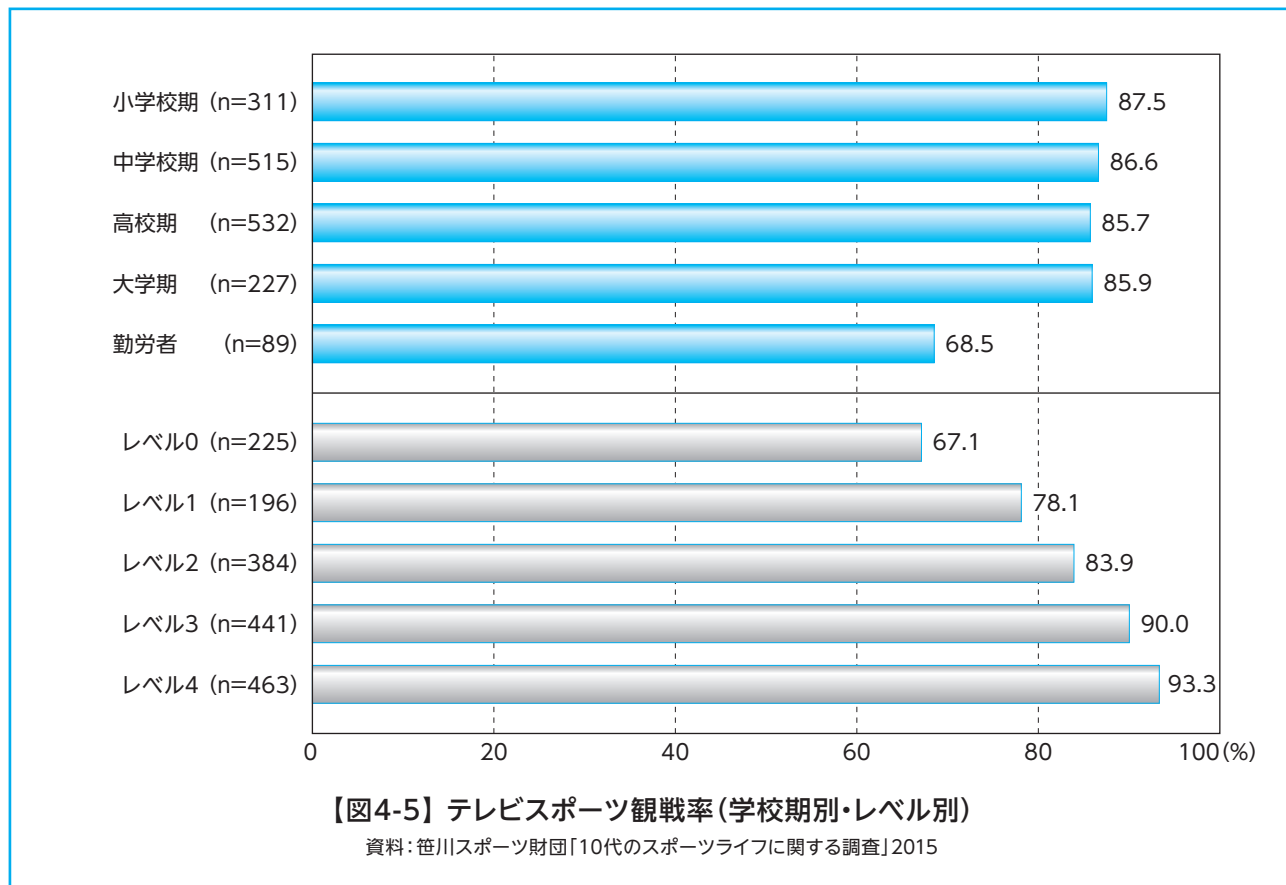


【図4-4】 テレビスポーツ観戦率の年次推移 (全体・性別)

資料: 笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2015

学校期別にみると、小学校期が87.5%で最も高く、次いで中学校期86.6%、大学期85.9%、高校期85.7%、勤労者68.5%であった(図4-5)。テレビでの観戦率は、学校期による違いはほとんどみられない。

運動・スポーツ実施レベル別にみると「レベル0」67.1%、「レベル1」78.1%、「レベル2」83.9%、「レベル3」90.0%、「レベル4」93.3%であり、レベルが上がるにつれて観戦率も増加する。



#### 4-4 テレビによるスポーツ観戦種目

過去1年間にテレビで観戦したスポーツは、全体では「プロ野球(NPB)」が48.4%と最も高く、次いで「サッカー日本代表試合(五輪代表を含む)」47.9%、「サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)」45.6%、「フィギュアスケート」40.7%、「高校野球」38.8%であった(表4-7)。2013年調査と比較すると「サッカー日本代表試合(五輪代表を含む)」が12.7ポイントの減少となった。一方で「プロテニス」は17.8ポイントの増加がみられ、2013年からほぼ倍増している。

性別にみると、男子は「サッカー日本代表試合(五輪代表を含む)」が56.8%と最も高く、次いで「プロ野球

(NPB)」56.7%、「サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)」47.2%、「高校野球」44.3%となり、野球とサッカーの人気の高い。女子も男子と同様に野球とサッカーのテレビ観戦率が高いが、最も高い観戦率を示したのは「フィギュアスケート」52.2%であり、女子のフィギュアスケート人気が見てとれる。

また、多くの種目で女子よりも男子のテレビ観戦率が高いが、「マラソン・駅伝」(男子26.8%、女子27.6%)、「バレーボール(日本代表試合)」(男子17.9%、女子27.6%)は女子の観戦率が高い特徴的な種目である。

今回調査において全体のテレビ観戦率が高かった上



位5種目に着目し、学校期別にみた観戦率の年次推移を表4-8に示した。2013年調査と比較すると「サッカー日本代表試合（五輪代表を含む）」の観戦率がいずれの学校期においても減少しており、小学校期9.3ポイント、中学校期13.5ポイント、高校期10.2ポイント、大学期15.6ポイント、勤労者15.6ポイントの減少がみられた。一方で「サッカー日本女子代表試合（なでしこジャパン）」はいずれの学校期においても観戦率が増加しており、「フィギュアスケート」も勤労者を除いた学校期で増加がみられた。

次に、今後テレビで観戦したいスポーツをたずねたところ、全体では「サッカー日本代表試合（五輪代表を含む）」が33.3%で最も高く、次いで「サッカー日本女子代表試合（なでしこジャパン）」29.8%、「プロ野球（NPB）」28.2%、「高校野球」25.8%、「フィギュアスケート」25.3%であった（表4-9）。一方で、今後「テレビでみたいスポーツはない」と回答した者は28.8%であった。2013年調査と比較すると「サッカー日本女子代表試合（なでしこジャパン）」が10.4ポイント、「フィギュアスケート」が9.9ポイント、「プロテニス」が10.9ポイント増加した。

【表4-7】 テレビで観戦したスポーツの年次推移(全体・性別:複数回答)

(%)

順位	種 目	全 体		男 子		女 子	
		2013 (n=1,844)	2015 (n=1,709)	2013 (n=964)	2015 (n=862)	2013 (n=880)	2015 (n=847)
1	プロ野球 (NPB)	53.0	48.4	63.1	56.7	42.0	40.0
2	サッカー日本代表試合 (五輪代表を含む)	60.6	47.9	67.7	56.8	52.7	38.8
3	サッカー日本女子代表試合 (なでしこジャパン)	38.5	45.6	40.7	47.2	36.1	43.9
4	フィギュアスケート	37.9	40.7	25.9	29.4	51.0	52.2
5	高校野球	37.0	38.8	45.4	44.3	27.8	33.2
6	プロテニス	16.1	33.9	18.7	37.1	13.3	30.6
7	マラソン・駅伝	29.6	27.2	30.4	26.8	28.8	27.6
8	バレーボール (日本代表試合)	24.5	22.7	18.7	17.9	30.9	27.6
9	Jリーグ (J1、J2、J3)	21.9	21.6	31.6	31.6	11.1	11.5
10	海外のプロサッカー (ヨーロッパ、南米など)	16.8	17.7	25.4	25.4	7.4	9.8
	テレビでみたことはない	12.1	14.9	10.7	12.9	13.8	16.9

資料: 笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2015

【表4-8】 テレビで観戦したスポーツの年次推移(学校期別:複数回答)

(%)

順位	種 目	小学校期		中学校期		高校校期		大学期		勤労者	
		2013 (n=389)	2015 (n=311)	2013 (n=586)	2015 (n=515)	2013 (n=557)	2015 (n=532)	2013 (n=199)	2015 (n=227)	2013 (n=85)	2015 (n=89)
1	プロ野球 (NPB)	56.3	46.9	51.7	51.8	53.1	50.0	52.8	46.3	45.9	34.8
2	サッカー日本代表試合 (五輪代表を含む)	64.3	55.0	60.9	47.4	57.6	47.4	66.3	50.7	45.9	30.3
3	サッカー日本女子代表試合 (なでしこジャパン)	41.6	55.0	42.5	45.4	33.2	45.3	41.2	42.3	27.1	31.5
4	フィギュアスケート	46.3	50.5	39.2	40.0	30.7	39.1	41.7	41.9	24.7	20.2
5	高校野球	34.4	31.5	35.3	38.6	40.0	43.2	41.7	41.9	28.2	32.6
	テレビでみたことはない	9.8	12.5	11.1	13.4	13.8	14.3	12.1	14.1	20.0	31.5

注) 順位は2015年調査における全体の観戦率が高かった上位5種目

資料: 笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2015

性別にみると、男子は「サッカー日本代表試合（五輪代表を含む）」42.7%、「プロ野球（NPB）」37.9%、「サッカー日本女子代表試合（なでしこジャパン）」33.2%、「高校野球」31.2%と野球・サッカーのテレビ観戦希望率が高い。一方、女子では「フィギュアスケート」が36.8%と最も高い。次いで「サッカー日本女子代表試合（なでしこジャパン）」26.5%、「サッカー日本代表試合（五輪代表を含む）」23.8%が男子と同様に高いが、「バレーボール（日本代表試合）」24.8%は、男子と比較して観戦希望率が10.8ポイント高い特徴的な種目である。

今回調査において全体のテレビ観戦希望率の高かった上位5種目を学校期別にみると、小学校期から高校期にかけて「サッカー日本代表試合（五輪代表を含む）」の観戦希望率が最も高い（表4-10）。また「テレビでみたいスポーツはない」は、勤労者が44.4%と最も高く、次いで中学校期28.7%、高校期27.7%、小学校期27.0%、大学期25.7%であった。2013年調査と比較すると、「テレビでみたいスポーツはない」と回答した者は、小学校期から大学期では減少傾向にあるが、勤労者では増加の傾向がみられた。

【表4-9】 テレビで観戦したいスポーツの年次推移（全体・性別：複数回答）

(%)

順位	種目	全体		男子		女子	
		2013 (n=1,839)	2015 (n=1,699)	2013 (n=960)	2015 (n=853)	2013 (n=879)	2015 (n=846)
1	サッカー日本代表試合（五輪代表を含む）	30.1	33.3	35.3	42.7	24.5	23.8
2	サッカー日本女子代表試合（なでしこジャパン）	19.4	29.8	19.3	33.2	19.6	26.5
3	プロ野球（NPB）	22.6	28.2	30.6	37.9	13.8	18.4
4	高校野球	19.7	25.8	24.4	31.2	14.7	20.4
5	フィギュアスケート	15.4	25.3	7.3	14.0	24.3	36.8
6	プロテニス	12.2	23.1	11.6	26.3	13.0	20.0
7	バレーボール（日本代表試合）	14.4	19.4	9.5	14.0	19.8	24.8
8	Jリーグ（J1、J2、J3）	13.0	15.6	19.2	23.0	6.3	8.2
9	海外のプロサッカー（ヨーロッパ、南米など）	12.9	15.5	18.5	23.3	6.7	7.7
10	マラソン・駅伝	10.0	13.3	11.0	14.2	8.8	12.4
	テレビでみたいスポーツはない	34.0	28.8	33.9	26.6	34.2	31.0

資料：笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2015

【表4-10】 テレビで観戦したいスポーツの年次推移（学校期別：複数回答）

(%)

順位	種目	小学校期		中学校期		高校期		大学期		勤労者	
		2013 (n=389)	2015 (n=307)	2013 (n=583)	2015 (n=512)	2013 (n=556)	2015 (n=528)	2013 (n=199)	2015 (n=226)	2013 (n=85)	2015 (n=90)
1	サッカー日本代表試合（五輪代表を含む）	29.0	33.9	28.5	31.8	31.8	34.7	34.7	39.4	24.7	22.2
2	サッカー日本女子代表試合（なでしこジャパン）	20.3	33.6	19.4	29.1	19.4	30.7	21.1	31.4	11.8	18.9
3	プロ野球（NPB）	22.9	26.1	23.0	30.1	23.7	29.2	22.1	30.1	14.1	20.0
4	高校野球	11.8	17.3	18.0	24.4	26.4	30.9	25.1	29.6	12.9	26.7
5	フィギュアスケート	15.7	30.0	15.4	24.4	14.4	24.1	20.6	29.6	8.2	13.3
	テレビでみたいスポーツはない	34.7	27.0	31.9	28.7	34.0	27.7	34.7	25.7	40.0	44.4

注）順位は2015年調査における全体の観戦希望率が高かった上位5種目

資料：笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2015